

Business Now

No.7

mcAccess e ユーザ・レポート

医療法人社団 松和会 様

URL ●http://www.showakai.or.jp
所在地 ●東京都新宿区(事務局)
今回事業所 望星平塚クリニック(神奈川県平塚市)
mcAccess e導入 ●平成17年8月
利用局数 ●9局
利用周波数/方式 ●800MHz帯/デジタル(mcAccess e)
利用サービス ●ワイドエリア利用
〔平成17年9月9日現在〕

医療施設の災害対策として 他に先駆けて mcAccess e を導入



医療法人社団松和会の医療施設のひとつ「望星平塚クリニック」50床もの透析設備を有し、内科、循環器科、消化器科、歯科の診療を行なう。

災害が起きたときにまず最初にすべきことは患者さんの安全の確保。災害に強い無線の導入で、私たち医療スタッフも安心して業務に取り組むことができます。(看護師 五十嵐さん)

行政と共に 災害対策の強化が必要

いざ大地震などの災害が発生した場合、グループ内の医療情報はどのように集められ、どのように伝達されるのか。体制は確立されているのか。医療法人社団松和会では災害時の対応にこうした懸念を抱いていた。

「血液透析が出来なくなった場合、即患者さんの命にかかわるということは、基本的にはありません。その時に医療機関としてどう行動するかが重要な課題だったのです」

自治体の災害対策本部の対応マニュアルによれば、災害発生時の医療情報はラジオ放送や広報車を介して発信されるようになっている。血液透析施設の情報は誰がどのように集め、誰に提供していくのか。

「医療の当事者である我々も、行政への情報提供者であるべきだと思ったのです」

こうした社会的な使命感も背景となって、松和会では独自の無線ネットワークとして平成17年8月にmcAccess e を導入。現在、ネットワークは神奈川の血液透析サテライト8拠点。災害が発生した場合、いち早く各地の透析サテライトから情報が集められ、被災した施設に対しては、近隣の受け入れ可能な施設がいち早く支援していく体制の確立を目指している。

災害時の情報は 自治体の無線ネットワークにも提供

mcAccess e によって集められた施設の情報は、松和会内部の相互支援に留まらず、災害情報の一つとして関係自治体に提供する。「どこのクリニックはダメで、どこのクリニックなら透析が受けられる…といった私どもの情報をラジオ放送なり広報車で正確に伝えてもらえば、透析患者さんも安心です」

自治体では災害時の情報網として、警察や消防、病院などの公的機関とのネットワークを確立しているが、体制づくりにはどうしても限界が生じてしまう。たとえば医療情報については、公立病院や救急病院など一部の施設に関するものに限られるケースが少なくない。その点で、松和会からの血液透析

ユーザープロフィール User Profile

血液透析を主体とし、
総合病院や老人保健施設を含む10余施設を展開中。

松和会は科学的かつ適切な医療の普及と、疾病予防のための健康診断及び健康指導等を行うことを目的とした法人で、1975年創立以来、慢性腎不全患者に対する血液透析を主体として逐次

施設を増設。現在では血液透析医療のほか、総合病院、老人保健施設、指定居宅介護支援事業所、訪問介護/看護ステーションを1都2県にわたり10余の施設を展開している。



施設の情報は、自治体として極めて貴重な存在になり得るかもしれない。

将来的に首都近県を含む 全施設に

mcAccess e を導入して1ヶ月。松和会では緊急時にも慌てずに機器を使用し、円滑な連携ができるよう訓練を重ねている段階であるが、その導入効果については大きな期待を寄せている。手始めということもあって、現在8拠点にポータブル無線機を導入しているが、今後は東京、神奈川などの提携施設にも導入を予定。最終的には全施設のネットワークを完成したいと考えている。

「大切なのは、mcAccess e を使ってグループの医療及び施設の情報を収集し、透析に関する正確な情報を透析患者さんと行政へ提供すること。一気に無理なので、訓練を重ね試行錯誤を繰り返しながら、mcAccess e の価値を最大限に高めていきたいですね」

今や、災害対策は行政に頼るだけでは済まされない時代である。公助に依存するだけでなく、医療機関が自らの



今まで無線を使ったことはなかったのですが、個々のクリニック間で無線を使った連絡をマメにすることで、すぐに慣れました。慣れれば電話連絡より早くて便利です。(事務 香川さん)



独自に無線ネットを 確立することは 医療機関の社会的使命

医療法人社団 松和会
望星平塚クリニック 事務長
佐藤豊さん

システム導入の打ち合わせ中にも、地震がありました。災害対策は医療機関として自らが真剣に取り組んでいく時代なんです。いざという時にはいち早く状況をとりまとめ、情報を自治体に提供していく。それも医療機関の重要な使命なのではないでしょうか。

力で医療情報を提供し、その成果を行政に役立ててもらおう。mcAccess e を使ったこうした松和会の取り組みは、全国の医療機関にとって大変参考となるモデルケースとして注目を集めている。

from Dealer.....

医療機関はmcAccess e が社会的に貢献する新たな場として期待しています。

横浜通信機株式会社 営業部 部長 山上武司さん

防災行政無線の受信装置を設置させていただいた時に、「独自に情報通信網を持ってないか」とご相談を受けたのがきっかけで、mcAccess e をご提案させていただきました。

mcAccess e なら地震に強く、一斉呼び出し・グループ呼び出し機能、広域ネットワークサービスなど、松和会様のニーズに合致しており、ポータ

ブル無線機で機動力にも優れているため、全体的に高い評価をいただけたと思っています。

医療の現場へのご提案は初めてでしたが、災害対策の視点から言えば、こうした分野もmcAccess e の新しい活躍のフィールドであるとあらためて実感しています。

